

科目担当者氏名		科目担当者連絡先(メールアドレス)	
(ふりがな)	たていし ゆうじ 立石 裕二	[REDACTED]	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	なかの やすと 中野 康人	関西学院大学 社会学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I		21名	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

受講学生が調査のテーマ設定から、質問項目の作成、アポ取り、インタビューの実施、記録の作成、報告書の執筆にいたるまで社会調査の一通りの過程を体験的に学習できるよう授業を運営した。班ごとにサブテーマを設定し、1人が1件のインタビューについて最初から最後まで担当する形で進めた結果、積極的に取り組む姿勢を引き出すことができたと思う。

## II. 調査の企画・設計(デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：イノベーションの社会学という大まかな枠の中で学生どうしで話し合ってテーマを絞りこみ、最終的に「デジタル化社会における文房具の役割」というテーマで調査をおこなった。

2. 調査の内容/概要：長期的に見たとき、ペンやノートといった文房具は、デジタル化の進展に伴ってその活躍の場を徐々に狭めつつある。オフィスでは、ボールペンで書くよりも、キーボードを打つ時間のほうが長くなった。かつては経理の業務に不可欠だったそろばんも、電卓、そして表計算ソフトに置き換わった。今回の調査では、社会全体としてパソコンやタブレット、スマートフォン等のデジタル機器の利用が広がる中で、「アナログ」な文房具、すなわち、書く・消す・切る・貼る・束ねるといった身体的動作と結びついた文房具について、その現状と今後を考えることを主な課題とした。

3. 調査の範囲/対象(量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：文房具メーカーを中心に、文房具店、デザイナー、教育機関、出版社、デジタル機器の利用者(オフィス/運動部)、展示施設などにインタビューを行った。

4. 主な調査項目：ロングセラー商品をとりまく社会的文脈、奇抜な(斬新な)新製品が生まれた背景、職場や教育の場のデジタル化とその課題、計算機器の普及と「そろばん」の役割の変化、世代ごとに見た文房具の役割、文房具店の苦境と新しい展開

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集(現地調査)の方法：事前に書籍・インターネットなどで情報収集をした上で、アポイントメントをとって調査に伺い、各対象者に1時間程度のインタビューをおこなった。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2016年6月～7月、兵庫県・大阪府などで実施した。調査員は受講学生21人と教員1人。

7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：受講学生が録音データをもとに、インタビュー記録を作成した。事前に調査方法について指導し、詳細な質問項目を作成した上でインタビューを実施し、対象者にも記録の確認をとっており、十分な学術的価値を有すると考える。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：班ごとにインタビュー記録をもとにディスカッションし、モノの流れやアクター間の関係を図解して把握するよう努めた。また、関連する文献を読み、インタビュー中の発言が出てきた文脈を適切に解釈できるよう努めた。

9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)：

ロングセラー商品であっても、製法や消費のされ方はつねに変化していること。アナログな文房具に対しても、裁縫や買い物などに手間をかけられなくなった現代社会ならではの新たなニーズが生まれていること。デジタル機器の導入によって、できることは大きく広がるが、利用スキルの格差は大きく、特定の人に負担が集中しがちであること。そろばんのようなアナログ文具の今後として、感覚を生かした学び、競技、(高齢者の)娯楽などの展開が見られること、などが明らかになった。

10. 報告書刊行の予定と概要：2016年3月に受講学生のレポートを掲載した報告書を印刷・製本した。近日中にインタビュー対象者等に配布する予定である。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の\*印の箇所には数字を(\*/\*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。